2022年8月8日
在グアテマラ日本国大使館

公開情報のとりまとめは以下の通り。

1 内政

（1）非常事態宣言発令地域での治安部隊への襲撃

客年12月17日に起こったソロラ県サンタ・カタリナ・イシュタワカン市とナワラ市間の土地所有問題を巡る衝突により同地域に非常事態宣言が発令されたが、7日、住民グループが家宅捜査及び4人の逮捕を実施しようとした治安部隊を襲撃し、治安部隊側に死傷者が出た。9日、ジャマテイ大統領はビデオ・メッセージで治安部隊への襲撃を非難した。

（2）検事総長選出プロセスの開始

13日、国会にて検事総長選出委員会が設置され、検事総長選出プロセスが開始された。検事総長選出委員会は、最高裁長官が委員長を務めグアテマラ弁護士・公証人組合の代表及び各大学（合計12大学）の法学部長等、合計15人。（検事総長の選出は4年ごとに行われ、新たに選出される検事総長は5月17日に大統領が任命。）

（3）検察庁による反汚職判事の不逮捕特権剥奪請求と米政府による非難

13日、反汚職派として広く認識されているエリカ・アイファン判事に対し、検察庁は同判事が職権乱用や職務義務不履行を行ったとして同判事の不逮捕特権剥奪請求を行った。これを受け16日、米務省がアイファン判事を擁護する声明を発出した。

（4）汚職状況の悪化

ヒューマン・ライツ・ウォッチは13日、年次報告を発表し、グアテマラの司法の独立が重大な危機に瀕しているとして当国の汚職状況の悪化を指摘した。同年次報告では、グアテマラ政府当局が透明性確保を妨害しており、グアテマラ国家組織内、特に国会と検察庁での汚職行為により、司法の独立性が重大な脅威に晒されている、と指摘した。

（5）ブロロ外務大臣の辞任発表

25日、ロペス大統領府報道官は、ペドロ・ブロロ外務大臣が2月1日付けで外相を辞任する旨発表した。辞任理由は一身上の都合。

（6）内務大臣の交代

25日、ヘンドリ・レジェス内務大臣の辞任が発表され、同日、バリエントス新内務大臣が任命された。

(7) 2021年腐敗認識指数の発表

グアテマラは、腐敗認識指数（CPI／汚職対策に取り組む国際NGOトランスパレンシー・インターナショナルによる汚職レベル指標）の公開以来、最も低いランキングを記録した。2021年のグアテマラの腐敗認識指数は100点中25点（指数が高いほど腐敗が少ない）、180カ国中150位であった。グアテマラは中南米地域ではベネズエラ（14点）、ニカラグア（20点）、ハイチ（20点）、ホンジュラス（23点）に次いでワースト5であった。なお、ジャマテイ政権は2年連続で25点（過去最低指数）を維持している。

(8) ベニート元通信インフラ住宅大臣の出頭・逮捕

収賄及び資金洗浄の容疑で指名手配中であったベニート元通信インフラ住宅大臣（2018年-2020年、モラレス前政権時の通信インフラ大臣）が、21日に出頭し逮捕された。ある情報筋によると、ベニート元インフラ大臣はジャマテイ大統領の選挙運動に数百万ケツアルの資金提供を行っていた。また、ポラス検事総長の補佐官の姪（元検察官）がベニート元大臣を擁護する弁護士チームに加わっている。

(9) 米国からの送還者の増加

2021年の米国からの送還者（移民）は合計17,806人であった。2021年の米・メキシコからの送還者合計は6万3,304人となり前年比44%増加であった。また、2021年の間に米国へ向かう途中に亡くなった不法移民（当国へ遺体が送還された数）は138人、前年（79人）と比較して約1.5倍となった。

2 内政（新型コロナウイルス関連）

(1) グアテマラの感染状況

検査実施数が少ない週末・祝日の一時的な低下を除き、昨年末の新規感染者数は約800件／日であったが、1月に入ってから2,000件／日まで急増し、月末は4,000件／日前後を推移した。病院でのコロナ専用病床稼働率は6%から50%まで上昇し、ワクチン接種率の低い18歳～39歳を中心に感染が拡大した。

(2) 「アラート信号」システム

期間	赤	橙	黄	緑
12月27日～1月9日	13市	34市	293市	0市
1月10日～23日	31市	79市	230市	0市
1月24日～2月6日	71市	127市	142市	0市

注：2020年7月27日から開始された「アラート信号」システムに関する詳細は当館HP (https://www.gt.emb-japan.go.jp/itpr_ja/border20200331.html) を参照。

(3) ワクチンの到着

1月27日、COVAXファシリティを通じファイザー・ワクチン68万940回分が到着した。

(4) ワクチン3回目接種のインターバル期間の変更

5日、コマ保健大臣は接種2回目と3回目のインターバル期間を、当初発表していた6ヶ月間から3ヶ月間へ短縮すると発表した。また、当初は3回目（ブースター）のワクチン接種対象を高齢者等の感染症に脆弱なグループとしていたが、2回目の接種が終了している全ての人々に門戸を広げた。なお、モデルナまたはファイザーの2回目の接種が完了している場合、3回目（ブースター）接種にはモデルナまたはファイザーが適用される。アストラゼネカ、スプートニクV、シノバック、シノファームの2回目の接種が完了またはジョンソン・エンド・ジョンソンを接種している場合は、3回目の接種にアストラゼネカ、モデルナまたはファイザーが適用される。

(5) 国内初オミクロン株検出の発表

8日、国立保健研究所は、12月4日から26日の間に国内で採取した新型コロナウイルスの検体89体のうち、57体（64%）がオミクロン株、32体（36%）がデルタ株であったと発表した。オミクロン株は客年12月中に当国内に侵入し感染が広がったことが分かった。

(6) 学校授業再開に関するプロトコルの発表

10日、保健省はコロナ禍での学校授業に関する新たなプロトコルを発表した。アラート信号「赤」では対面式授業は不可。「オレンジ」から対面とリモートのハイブリット式授業での運用となった。

(7) 閣僚3人の感染

20日、ゴンサレス財務大臣、マルドナード通信インフラ住宅大臣、グラマホ大統領府企画庁（Segeplan）長官のコロナ感染が確認された。ジャマテイ大統領は最近行ったPCR検査で陰性であったが、隔離下にありテレワークを行っている。ブロロ外相はコロナ症状があったため、抗原検査を行ったが陰性であった。

(8) ワクチンの使用期限到来等による廃棄

保健省の記録によると、ワクチン接種開始以降、2021年10月から12月の間に1万1,835回分のワクチンが廃棄処分になったことが判明した。この内7,847回分（廃棄の66%）は使用期限切れによるもので、3,940回分はコールド・チェーンの不備によるものであった。

(9) 地方におけるワクチン接種の遅れと忌避

10日、保健省は、ワクチンを一度も接種していない人口は600万人以上に上り、現在接

種対象である12歳以上の人口53%に相当する国民が一度も接種を受けていないと発表した（注：グアテマラ総人口1,660万人（2019年世銀推計）。ワクチン接種率が低いのはワクチン不足に因るものではなく、ワクチンに関する（不妊や短命を引き起こすといった）誤った情報が信じられているため、農村部でワクチン接種のため各家庭を戸別訪問する保健省コンセプション市保健センターの職員は、接種の有効性を説明するも住民らは口伝えやSNSの誤った情報を信じており、説得は容易ではないと述べた。

3 外交

（1）ジャマテイ大統領とハリス米副大統領の電話会談

10日、ジャマテイ大統領はハリス米副大統領と電話会談を行い、不法移民、移民発生の要因に取り組むための投資促進、麻薬密売組織との闘い、安全保障、貿易、開発支援について意見交換が行われた。また、ジャマテイ大統領は、ハリス副大統領に対し、移民キャラバン解決、麻薬密売組織弱体化のための支援を要請し、中国による中米への介入拡大について懸念を表明した。

（2）ホンジュラスからの移民キャラバン到着

15日、主にホンジュラス人とニカラグア人から成る移民キャラバンがグアテマラとの国境地点イサバル県エル・コリントに到着し、入国条件を満たした一部が当国へ入国したが、その他はホンジュラスへ送還された（報道によりバラツキはあるが、グアテマラ国境へ到着した移民キャラバンの人数は約800人）。また、15日夕刻から夜にかけ、国境地点エル・コリントで、入国を阻止された移民キャラバンの一部グループ約300人が治安部隊へ投石など暴力を働き、グアテマラ治安部隊の15人が負傷した。グアテマラ側は催涙ガスにより移民キャラバンの突破を阻止した。

（3）当国政府の米国ロビー活動契約に対する台湾からの資金協力

グアテマラ政府は13日、米国でのプレゼンス向上のため米国のロビー活動会社であるBallard Partners社とロビー活動契約を締結した。また、右費用（年間費用90万米ドル）は台湾政府からの資金協力により支払われる旨明らかになった。

（4）検事総長選挙を巡る政府による主要ドナー国グループへの批判

当地主要ドナー国・国際機関から成る主要国支援グループ「G13」が検事総長選出委員会のメンバーとのインターネット会議を計画していたところ、グアテマラ政府はG13による内政干渉であると同会議への招待を強く批判・警告するコミュニケを発出した。これを受けG13は同会議をキャンセルした。

（5）グアテマラ・メキシコ外相会談

ブロロ外相は18日、在トルーカ・グアテマラ名誉総領事館（メキシコ州）開設のためメキシコを訪問し、エブラル墨外相と二国間外相会談を行った。両外相は二国間アジェンダの優先課題に取り組み、特に両国の国境地域における共通課題を優先することで合意。

(6) ジャマテイ大統領のダボス会議出席

19日、ジャマテイ大統領はダボス会議に出席し、2021年経済成長率7.5%、2022年予想率6%で経済成長を維持すると強調し、グアテマラへの投資やワクチンへの公平なアクセスを訴えた。

(7) 台湾での商務担当事務所開設

1月20日、グアテマラ政府は台湾に商務担当事務所を開設した。なお、商務担当事務所所在地は、米国（ワシントンDC、マイアミ、ロサンゼルス、ニューヨーク）、メキシコ（メキシコシティ、モンテレイ）、カナダ、エルサルバドル、ドミニカ共和国、コロンビア、チリ、ペルー、スペイン、オランダ、ドイツ、イギリス、ベルギー、トルコ、イスラエル、アラブ首長国連邦、韓国、台湾。2021年の対台湾輸出額は記録を更新し9,164万米ドルであった。砂糖、コーヒー、金属、皮革、繊維製品、エビが台湾への主要輸出品目である。

4 経済

(1) 2022年の経済成長率（予想）

グアテマラ中銀は2022年の経済成長率は3.5%~5.5%が見込まれると発表した。

(2) 2022年輸出額増加の見込み

非伝統産品輸出業協会（AGEXPORT）は、2022年の輸出額を183億米ドルと予測した。2021年（167億米ドル）と比較し9.8%の成長が見込まれる。

(3) 2021年海外直接投資

中銀は、2021年1月から9月までの外国直接投資額8億2,100万米ドルであったと発表。うち22%がコロンビアから、次いでメキシコ18%。金融分野への投資が最も多く2億5,260万米ドルであった。

◇主要経済指標◇	2022年	2021年		2020年	2019年
	1月	12月	11月		
インフレ率（前年同月比）	2.87%	3.07%	2.89%	3.21%	3.70%
貿易収支（百万ドル）	△1,306	△1,238	△1,546	△6,692.3	△8,710.9
輸出（百万ドル）	1,212.4	1,310.8	1,112.0	11,514.2	11,170.5
輸入（百万ドル）	2,518.7	2,549.7	2,658.3	18,206.5	19,881.4
外貨準備高（百万ドル）	20,813.4	20,939.6	20,701.8	18,468.2	14,789
外国からの送金（百万ドル）	1,180.7	1,512.2	1,356.6	11,340.4	10,508.3
為替レート（対ドル月平均）	7.69	7.72	7.73	7.72	7.69

（出典：中銀、国立統計院）